



子どもの低身長と

相談のタイミングについて



小児科部長
遺伝相談室長
周産期母子医療副センター長

おたか こうのすけ
大高 幸之助

「お子さんが検診で低身長と言われた」「中学生なのに身長が低い」といった心配をお持ちの方はいませんか。今回は身長増加と相談のタイミングについて解説します。

まず成長には3つの時期があります。出生後から3歳程度までの乳幼児期、^{*}二次性徴発来前の小児期、二次性徴発来後の思春期です。

乳幼児期は最も身長が伸び、最初の1年間で25cm、4歳で出生時の2倍の約100cmとなります。この時期の成長には栄養が大切です。

次の小児期は成長がやや緩やかになり、年間平均6cmの身長増加になります。この時期は成長ホルモンと甲状腺ホルモンが重要な役割を担っています。

その後女子が平均10歳、男子が11歳半になると思春期となり成長スピードを迎えます。この時期の成長には性ホルモンが大きく関係しています。二次性徴の発来時期は個人差が大きく、発来が遅めの方は小学校

男女別 成長曲線



▲男子



▲女子

高学年の頃は小柄ですが、中学生から高校生で身長が伸びる傾向があります。このような場合、両親のどちらかまたは両方が同様の成長パターンであることが多いです。実際に低身長で受診される方の多くが、二次性徴の発来時期が遅いためによる低身長です。また最終身長は遺伝的影響が大きく、親が小柄であると、お子さんも小柄になることが多いです。最後に受診のタイミングについては、成長曲線のリンク先をお示しします。印刷して記録のある範囲で身長を記入し、曲線に沿った伸びがない場合や-2.0SDを下回る時は、詳しい検査が必要かどうかなど、かかりつけ医への相談をお勧めします。
^{**}二次性徴 成長に伴い発生する男
女の性的な身体の変化

vol.88

みんな、《な》がつくね。

ふれあい交流センター センター長

はかまた やすづく
袴田 恭紹

子ども料理教室に参加している子どもたちの活動の中から、次のような声が聞こえてきました。「みんな、《な》がつくね」お互いの名前がわかるように、エプロンの上につけた参加者用名札を見てみると、そのグループには「ななこ」さん、「かな」さん、「まなか」さん、「りな」さんという名前が書いてあるではありませんか。子どもたちは、お互いの名札を見合せて、「本当だね」「おもしろいね」という声と共にほじける笑顔が続きました。タイミングよく講師の先生から、「チームなっちゃん、かつこいいね」と声かけられました。

いる状況や気持ちを推察し、相手に寄り添うことのできる能力のことを言うそうです。同じグループになった子の名前に、みんな《な》という文字が入っていることに気づく力。声が上がった時、一緒になって発見を喜ぶ力。あえて力と書きましたが、まさに共感力であると思います。グループ内の発言に対して「それが、何？」という反応では、心も体も凍りつき、活動が減退してしまいます。

この会話をきっかけとして、グループの活動が活発になり、それまで、なかなか活動に入っていけなかった1年生の女の子が、一緒に活動を始めました。学校も学年も違う子どもたちが市内から集まり、一緒に料理を作っているのですから、抵抗があるのも無理はありません。見えない糸を繋ごうとする言葉から一体感が生まれ、自分とみんなは同じであるという安心感に包まれたのでしょう。子どもも、雰囲気を一瞬で変えることのできる魔法のような力を持っています。

「あなたは、人権を尊重していますか？」と正面から聞かれると答えに窮する人が多いと思いますが、人権を尊重することは、特別なことではありません。それは、人を大切にすることであり、普段から行っていることです。あいさつをしたり、話し合ったりする時に、相手のことを大切にしているのでしょうか。前述の子どもたちも講師の先生も、一緒に活動している人たちを大切にしているのが、よく分かります。誰もが持っている共感力が磨かれていけば、高まっていけば、人権に関する問題は起こらないようになっていくのではないのでしょうか。



人権 コラム